

平成 20 年 3 月期 決算関連補足資料

I. 連結財務ハイライト	1
II. 連結損益計算書	2
III. 連結貸借対照表	5
IV. 連単倍率、連結子会社、従業員数、MR数	7
V. 四半期業績の推移	7
VI. 個別財務ハイライト	8
VII. 株式の状況	9
VIII. 開発状況表	10
IX. 主な開発品のプロフィール	14

平成 20 年 5 月 9 日

大日本住友製薬株式会社

- ・本資料の予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しています。実際の業績は、今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。
- ・本資料の数字は四捨五入で表示しています。四捨五入のため、合計数字に差異が生じる場合があります。

I. 連結財務ハイライト

1. 損益計算書項目

(億円)

	平成19年		平成20年		21年3月期第2四半期		平成21年3月期	
	3月期	3月期	3月期	増減率%	累計予想	増減率%	通期予想	増減率%
売上高	2,612	2,640		1.1	1,326	3.0	2,660	0.8
売上原価	993	994		0.0	512	6.3	1,025	3.1
販売費及び一般管理費 (うち研究開発費)	1,163 (409)	1,248 (473)		7.3 (15.7)	668 (281)	14.7 (42.9)	1,330 (565)	6.6 (19.5)
営業利益	456	398		△ 12.6	146	△ 34.6	305	△ 23.4
経常利益	432	377		△ 12.8	146	△ 34.2	305	△ 19.0
当期(四半期)純利益	226	256		13.2	88	△ 36.2	185	△ 27.7

(注) 売上原価には返品調整引当金戻入(繰入)額を含めて記載しております。
増減率は対前年同期実績に対する増減率を記載しております。

1株当たり当期純利益(円)	56.86	64.39	46.55
自己資本当期純利益率(ROE)	7.6%	8.2%	5.7%
連結配当性向	24.6%	28.0%	38.7%

2. 貸借対照表項目

(億円)

	平成19年	平成20年	増減額
	3月末	3月末	
総資産	3,825	3,998	173
純資産	3,060	3,183	123
自己資本	3,051	3,182	131

自己資本比率 79.8% 79.6%

3. 設備投資および減価償却費の状況

(億円)

	平成19年	平成20年	増減額	平成21年	増減額
	3月期	3月期		3月期(予)	
設備投資額(無形固定資産を含む)	95	155	59	120	△ 35
減価償却実施額	113	111	△ 2	115	4

・平成21年3月期の主な設備投資

総合研究所 西棟動物室改修

5.0億円(総予算5.5億円、平成20年12月完成予定)

茨木工場 P T P 分包機更新

5.7億円(総予算5.7億円、平成21年2月稼働予定)

4. キャッシュ・フロー計算書項目

(億円)

	平成19年	平成20年	増減額
	3月期	3月期	
営業活動によるキャッシュ・フロー	379	325	△ 54
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 197	△ 510	△ 313
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 78	△ 69	8
現金及び現金同等物の期末残高	817	563	△ 255

・親会社に短期貸付を実施(400億円)

II. 連結損益計算書

1. 損益計算書

(億円)

	平成19年	平成20年			
	3月期	3月期	増減額	増減率%	
売上高	2,612	2,640	28	1.1	(増収要因) ・戦略4製品の増加 ・輸出の増加 (減収要因) ・戦略4製品以外の既存製品の減少
海外売上高	220	245	25	11.3	
売上原価	993	994	0	0.0	・利益貢献度の高い戦略4製品の売上増加による売上原価率改善(38.0%→37.6%)
売上総利益	1,619	1,646	27	1.7	
販売費及び一般管理費	1,163	1,248	85	7.3	・企業認知度向上のための諸施策の実施 ・ルラシドンの海外臨床試験が本格化
人件費	321	323	3	0.9	
広告宣伝費	50	59	8	16.3	
販売促進費	95	94	△0	△0.2	
その他	289	299	10	3.5	
販売費・一般管理費	754	775	21	2.8	
研究開発費	409	473	64	15.7	
営業利益	456	398	△57	△12.6	・受取利息の増加
営業外収益	19	31	12		
営業外費用	43	52	10		
経常利益	432	377	△55	△12.8	・公開買付け応募による売却
特別利益	—	38	38		
投資有価証券売却益	—	38	38		
特別損失	48	—	△48		
特別退職金	29	—	△29		
訴訟関連費用	10	—	△10		
退職給付制度改定に伴う損失	6	—	△6		
固定資産減損損失	2	—	△2		
税金等調整前当期純利益	384	415	30	7.9	
法人税等	158	158	0		
少数株主利益	1	1	0		
当期純利益	226	256	30	13.2	

(注)売上原価には返品調整引当金戻入(繰入)額を含めて記載しております。

2. 事業の種類別セグメント情報

(億円)

	平成19年3月期			平成20年3月期			21年3月期第2四半期 累計予想			平成21年3月期 通期予想		
	医薬品	その他	計	医薬品	その他	計	医薬品	その他	計	医薬品	その他	計
売上高	2,063	550	2,612	2,087	553	2,640	1,046	280	1,326	2,090	570	2,660
営業利益	444	12	456	387	11	398						

3. 主要製品の販売状況

国内売上高

(リポート控除前、億円)

品 目 [薬 効]	平成19年3月期	平成20年3月期	平成21年3月期 予想
ア ム ロ ジ ン [高血圧症・狭心症治療薬]	592	636	570
ガ ス モ チ ン [消化管運動機能改善剤]	185	195	200
メ ロ ペ ン [カルバペネム系抗生物質製剤]	143	148	145
プ ロ レ ナ ー ル [末梢循環改善剤]	138	145	150
エ バ ス テ ル [持続性抗アレルギー剤]	114	111	105
ス ミ フ ェ ロ ン [天然型インターフェロン-α製剤]	64	60	65
キ ュ バ ー ル [吸入ステロイド喘息治療剤]	48	43	43
グ ロ ウ ジ ェ ク ト [ヒト成長ホルモン製剤]	48	43	45
ド プ ス [ノルエピネフリン作動性 神経機能改善剤]	45	41	36
グ リ ミ ク ロ ン [経口血糖降下剤]	44	39	35
エ ク セ グ ラ ン [抗てんかん剤]	36	35	35
タ ガ メ ッ ト [H ₂ 受容体拮抗剤]	39	33	28
ア ル マ ー ル [高血圧症・狭心症・不整脈 治療剤]	35	32	30
ル ー ラ ン [抗精神病剤]	31	30	29
セ デ イ ー ル [セロトニン作動性抗不安薬]	30	30	29
ア ム ビ ゾ ー ム [深在性真菌症治療剤]	13	25	40

輸出高 (億円)

品目 [薬効]	平成19年3月期	平成20年3月期	平成21年3月期 予想
メロペネム [カルバペネム系抗生物質製剤]	161	181	140
モサプリド [消化管運動機能改善剤]	14	17	18
ゾニサミド [抗てんかん剤]	8	3	8

工業所有権収入 (億円)

	平成19年3月期	平成20年3月期	平成21年3月期 予想
工業所有権収入	39	35	34

海外売上高 (億円)

	平成19年3月期	平成20年3月期	平成21年3月期 予想
輸出	191	211	173
工業所有権収入	29	35	34
海外売上高合計 (売上高比%)	220 (8.4)	245 (9.3)	207 (7.8)

Ⅲ. 連結貸借対照表

[資産の部]

(億円)

科 目	平成19年 3月31日	平成20年 3月31日	対前期末 増減額
〔 資 産 の 部 〕	3,825	3,998	173
(流動資産)	2,343	2,511	167
現金及び預金	558	282	△ 276
受取手形及び売掛金	888	864	△ 24
有 価 証 券	280	301	21
た な 卸 資 産	450	485	36
繰 延 税 金 資 産	104	134	29
短 期 貸 付 金	—	400	400
そ の 他	66	49	△ 18
貸 倒 引 当 金	△ 2	△ 3	△ 1
(固定資産)	1,482	1,487	5
有形固定資産	652	703	50
建 物 及 び 構 築 物	374	398	23
機 械 装 置 及 び 運 搬 具	113	101	△ 12
土 地	100	100	—
建 設 仮 勘 定	19	62	42
そ の 他	46	43	△ 3
無形固定資産	67	58	△ 9
投資その他の資産	763	726	△ 37
投 資 有 価 証 券	520	443	△ 77
繰 延 税 金 資 産	0	16	16
そ の 他	246	269	23
貸 倒 引 当 金	△ 4	△ 3	1
資 産 合 計	3,825	3,998	173

・親会社への貸付実施により、
預金が減少し、短期貸付金が増加

・鈴鹿工場 新固形製剤棟他

・有価証券時価評価による減少
・バイオベンチャーファンドへの
投資や社債購入による増加

	平成19年3月期	平成20年3月期
売上債権滞留月数	4.08カ月	3.93カ月

[負債純資産の部]

(億円)

科 目	平成19年 3月31日	平成20年 3月31日	対前期末 増減額
[負 債 の 部]	765	815	50
(流動負債)	560	679	119
支払手形及び買掛金	180	165	△ 15
1年以内に返済予定の 長期借入金	—	46	46
未払法人税等	82	109	26
賞与引当金	80	82	2
返品調整引当金	1	1	△ 0
売上割戻引当金	5	5	△ 0
訴訟関連費用引当金	10	11	0
未 払 金	—	228	228
そ の 他	201	33	△ 169
(固定負債)	205	136	△ 69
長期借入金	46	—	△ 46
繰延税金負債	21	—	△ 21
退職給付引当金	82	88	6
役員退職慰労引当金	1	0	△ 0
そ の 他	56	48	△ 8
[純 資 産 の 部]	3,060	3,183	123
(株主資本)	2,873	3,065	192
資 本 金	224	224	—
資 本 剰 余 金	159	159	△ 0
利 益 剰 余 金	2,495	2,688	193
自 己 株 式	△ 5	△ 6	△ 1
(評価・換算差額等)	178	117	△ 61
その他有価証券評価差額金	178	117	△ 61
(少数株主持分)	9	1	△ 8
負債純資産合計	3,825	3,998	173

・長期借入金の返済予定が1年以内
となったため振替

・19年3月末:「その他」に含まれる
「未払金」158億円
・20年3月末:新固形製剤棟建設費用
の支払が4月以降のため未払金が増加
(未払金純増額は71億円)

・有価証券時価評価益に係る繰延税金
負債が減少⇒繰延税金資産へ

IV. 連単倍率、連結子会社、従業員数、MR数

1. 平成20年3月期 連単倍率

(億円)

	連結	個別	差額	倍率(倍)
売上高	2,640	2,478	162	1.07
営業利益	398	395	4	1.01
経常利益	377	380	△3	0.99
当期純利益	256	254	2	1.01

2. 連結子会社の状況 (平成20年3月31日現在)

	設立年月日	資本金	持株比率
五協産業株式会社	昭和22年10月	100百万円	96.12%
DSファーマバイオメディカル株式会社	平成13年4月	480百万円	100%

3. 従業員数 (平成20年3月31日現在) : 連結・・・4,795人、個別・・・4,646人

4. MR数 (平成20年3月31日現在) : 1,400人…マネージャー除く、1,600人…マネージャー含む

V. 四半期業績の推移

(億円)

	平成19年3月期				平成20年3月期			
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
売上高	653	617	689	653	653	634	705	648
売上原価	246	235	258	255	254	228	259	253
販売費及び一般管理費	285	299	294	285	278	305	337	328
販売費・一般管理費	189	188	189	188	185	201	196	193
研究開発費	96	111	105	97	93	104	141	135
営業利益	122	83	137	114	121	102	109	66
営業外収益	7	4	4	4	11	4	10	6
営業外費用	4	16	4	19	4	13	8	28
経常利益	125	71	137	99	128	94	111	44
特別利益	-	-	-	-	-	-	-	38
特別損失	29	6	-	12	-	-	-	-
税金等調整前四半期純利益	95	65	137	87	128	94	111	82
四半期純利益	56	39	84	47	78	60	69	49

(注) 売上原価には返品調整引当金戻入(繰入)額を含めて記載しております。

VI. 個別財務ハイライト

1. 損益計算書項目

(億円)

	平成19年	平成20年		21年3月期第2四半期		平成21年3月期	
	3月期	3月期	増減率%	累計予想	増減率%	通期予想	増減率%
売上高	2,478	2,478	△ 0.0	1,246	3.3	2,500	0.9
売上原価	876	862	△ 1.6	446	7.4	895	3.8
販売費及び一般管理費 (うち研究開発費)	1,149 (409)	1,221 (471)	6.2 (15.3)	656 (281)	15.3 (43.4)	1,305 (564)	6.9 (19.7)
営業利益	453	395	△ 12.8	144	△ 35.1	300	△ 24.0
経常利益	429	380	△ 11.4	144	△ 34.8	300	△ 21.1
当期(四半期)純利益	225	254	12.8	87	△ 37.4	182	△ 28.4

(注) 売上原価には返品調整引当金戻入(繰入)額を含めて記載しております。
増減率は対前年同期実績に対する増減率を記載しております。

1株当たり当期純利益(円) 56.72 63.99 45.79

2. 貸借対照表項目

(億円)

	平成19年	平成20年	増減額
	3月末	3月末	
総資産	3,764	3,948	184
純資産	3,041	3,170	129
自己資本比率	80.8%	80.3%	

Ⅶ. 株式の状況（平成 20 年 3 月 31 日現在）

1. 発行可能株式総数 1,500,000,000株
2. 発行済株式の総数 397,900,154株（自己株式472,642株）
3. 株主数 17,181名
4. 大株主

株 主 名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
	千株	%
住 友 化 学 株 式 会 社	199,434	50.12
稲 畑 産 業 株 式 会 社	33,282	8.36
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信 託 口)	14,378	3.61
日 本 生 命 保 険 相 互 会 社	10,530	2.65
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信 託 口)	9,535	2.40
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (株式会社三井住友銀行退職給付信託口)	7,000	1.76
住 友 生 命 保 険 相 互 会 社	5,776	1.45
ド イ ツ 証 券 株 式 会 社	5,411	1.36
ニッセイ同和損害保険株式会社	4,928	1.24
第 一 生 命 保 険 相 互 会 社	3,248	0.82

Ⅷ. 開発状況表

・ 国内で開発中の品目

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	薬効分類または 追加予定適応症	備考
承認(薬価 収載待ち)	経口剤	イルベサルタン irbesartan	高血圧症治療剤	sanofi-aventis 社起源。ブリストル・マイヤーズ(株)よりサブライセンス。塩野義製薬(株)と国内共同開発
申請中	SM-11355 注射剤	ミリプラチン水和物 miriplatin hydrate	肝細胞癌治療剤	自社開発品
申請中 新効能	AD-810N 経口剤	ゾニサミド zonisamide	適応症追加 (パーキンソン病)	自社開発品 別銘柄申請 既承認適応症: てんかん (製品名: エクセグラン)
	スミフェロン SUMIFERON 注射剤	インターフェロンア ルファ (NAMALWA) interferon- α (NAMALWA)	適応症追加(C型代 償性肝硬変)	GlaxoSmithKline 社からの 導入品 既承認適応症: C型慢性 肝炎、腎癌 他
	ガスモチン GASMOTIN 経口剤	クエン酸モサプリド mosapride citrate	適応症追加 (経口腸管洗浄剤に よるバリウム注腸X 線造影検査前処置 後の造影能改善)	味の素(株)との共同開発 既承認適応症: 慢性胃 炎に伴う消化器症状(胸 やけ, 悪心・嘔吐)

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	薬効分類または 追加予定適応症	備考
第Ⅲ相	SMP-508 経口剤	レパグリニド repaglinide	糖尿病治療剤	Novo Nordisk 社からの導 入品
	SM-13496 経口剤	ルラシドン lurasidone	統合失調症治療剤	自社開発品
第Ⅲ相 新効能	メロペン MEROPEN 注射剤	メロペネム水和物 meropenem hydrate	適応症追加 (発熱性好中球減少 症)	自社開発品 既承認適応症: 種々の細 菌による中等度以上の感 染症

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	薬効分類または 追加予定適応症	備考
第Ⅱ相	AS-3201 経口剤	ラニレスタット ranirestat	糖尿病合併症治療 剤	自社開発品 杏林製薬(株)との共同開発 後期第Ⅱ相
	SMP-114 経口剤	rimacalib	関節リウマチ治療剤	自社開発品
	SMP-862 経口剤	メトホルミン塩酸塩 metformin hydrochloride	糖尿病治療剤	Merck Sante 社からの導 入品
	AC-3933 経口剤	radequinil	認知症治療剤	自社開発品

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	薬効分類または 追加予定適応症	備考
第Ⅰ相	SMP-986 経口剤	未定	過活動膀胱治療剤	自社開発品
	DSP-3235 経口剤	未定	糖尿病治療剤	キッセイ薬品工業(株)から の導入品
	コード名未定	未定	気管支喘息・アレルギー性 鼻炎治療剤	自社開発品 第Ⅰ相準備中

【2008年2月 第3四半期決算発表時点からの主な変更点】

ロナセン(ブロナンセリン)
イルベサルタン
ガスモチン適応症追加
ルラシドン
プロレナール適応症追加(頰椎症)
DSP-3235
コード名未定

発売したため削除
申請中から承認(薬価収載待ち)に変更
第Ⅲ相から申請中に変更
第Ⅱ相から第Ⅲ相に変更
開発中止のため削除
第Ⅰ相に新規掲載
第Ⅰ相に新規掲載(第Ⅰ相準備中)

・ 海外で開発中の品目

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	薬効分類または 追加予定適応症	備考
第Ⅲ相	SM-13496 経口剤	ルラシドン lurasidone	統合失調症治療剤	自社開発品 米国・欧州等:第Ⅲ相

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	薬効分類または 追加予定適応症	備考
第Ⅱ相	SMP-114 経口剤	rimacalib	関節リウマチ治療剤	自社開発品 欧州:後期第Ⅱ相
	AD-5423 経口剤	ブロナンセリン blonanserin	統合失調症治療剤	自社開発品 米国・欧州:第Ⅱ相
	AC-3933 経口剤	radequinil	認知症治療剤	自社開発品 米国・欧州:前期第Ⅱ相
	SMP-986 経口剤	未定	過活動膀胱治療剤	自社開発品 米国・欧州:第Ⅱ相

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	薬効分類または 追加予定適応症	備考
第Ⅰ相	SMP-028 経口剤	未定	気管支喘息治療剤	自社開発品 米国:第Ⅰ相
	DSP-7238 経口剤	未定	糖尿病治療剤	自社開発品 欧州:第Ⅰ相
	DSP-8658 経口剤	未定	糖尿病治療剤	自社開発品 米国:第Ⅰ相準備中

【2008年2月 第3四半期決算発表時点からの主な変更点】

DSP-7238

第Ⅰ相に新規掲載

DSP-8658

第Ⅰ相に新規掲載(第Ⅰ相準備中)

・ 海外導出品の開発状況

一般名／コード名 (日本での販売名)	薬効分類	開発状況
AG-7352	抗癌剤	2003年10月、Sunesis社に全世界の独占的開発権をライセンス、同社が北米で第Ⅱ相試験実施中(同社開発コード: SNS-595)
SMP-601	重症感染症治療剤	2005年5月、Protez Pharmaceuticals社へ欧米での開発・販売権をライセンス 同社が米国で第Ⅱ相試験を実施中(同社開発コード: PZ-601)
塩酸アムルピシン (カルセド)	抗癌剤	2005年6月、Celgene社(旧 Pharmion社)へ欧米での開発・販売権をライセンス 同社が欧米で第Ⅲ相試験を実施中
ラニレスタット AS-3201	糖尿病合併症治療剤	2005年9月エーザイ(株)に日本を除く全世界の開発・販売権をライセンス 同社が海外第Ⅲ相試験の計画を検討中
ドロキシドパ (ドプス)	ノルエピネフリン作動性神経機能改善剤	2006年5月、Chelsea社に日本、中国、韓国、台湾を除く全世界の開発・販売権をライセンス 同社が透析患者の低血圧に対する第Ⅱ相試験を米国で実施中。また、神経障害による起立性低血圧に対する第Ⅲ相試験を、欧米で実施中
コード名未定	気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤	2005年3月、AstraZeneca社に日本、中国、韓国、台湾を除く全世界の開発・販売権をライセンス 同社が欧州で第Ⅰ相試験を開始(2008年1月)。

【2008年2月 第3四半期決算発表時点からの主な変更点】

SMP-601
ドロキシドパ(ドプス)
コード名未定

スイスで第Ⅰ相試験実施中から米国で第Ⅱ相試験実施中に変更
欧米で第Ⅲ相試験準備中から第Ⅲ相試験実施中に変更
新規掲載

IX. 主な開発品のプロフィール

イルベサルタン 高血圧症治療剤

- ・ sanofi-aventis 社起源、ブリストル・マイヤーズ(株)からサブライセンス、国内は塩野義製薬(株)と共同開発
- ・ 血中半減期が長く、24 時間降圧効果が持続する、長時間作用型の ARB (アンジオテンシン II 受容体拮抗薬)。軽症から重症高血圧症まで優れた降圧効果を示す。欧米では Avapro 及び Aprovel の商品名で上市済みであり、腎保護作用の豊富なエビデンスが存在する。
- ・ 開発段階：承認 (薬価収載待ち) (国内)
- ・ 商品名：アバプロ[®]錠 50mg/100mg

SM-11355 (ミリプラチン水和物) 肝細胞癌治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は、脂溶性白金錯体で、油性造影剤 (ヨード化ケン油脂肪酸エチルエステル) に懸濁して肝動注する。油性造影剤を担体として用いることで、腫瘍部位に選択的に滞留し、長時間徐放性に活性体を放出させることができる。臨床試験において、全身性の副作用が軽度で、強い抗腫瘍効果を発揮することが示されている。
- ・ 開発段階：申請中 (国内)

AD-810N (ゾニサミド) パーキンソン病 (適応症追加)

- ・ 自社開発品
- ・ 1989 年 6 月、抗てんかん剤として発売 (製品名「エクセگران」)。ドーパミン受容体作用薬に代表される従来の抗パーキンソン病薬と異なるメカニズムでパーキンソン病の症状を改善すると考えられる。
- ・ 開発段階：申請中 (国内)

SMP-508 (レパグリニド) 糖尿病治療剤

- ・ Novo Nordisk 社から導入
- ・ 速効型インスリン分泌促進剤。食後血糖上昇の抑制に加え、空腹時血糖や HbA1c の低下が期待される。
- ・ 開発段階：フェーズ III (国内)

SM-13496 (ルラシドン) 統合失調症治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ ドーパミン-2、セロトニン-2、-7 受容体に対する強力な拮抗作用と、セロトニン-1A 受容体に対する高い親和性を有している。統合失調症に対して優れた効果を示すとともに、錐体外路系や心臓系に対する作用および体重増加等について高い安全性を有すると期待される。
- ・ 開発段階：フェーズ III (米国・欧州等)、フェーズ III (国内)

AS-3201 (ラニレスタット) 糖尿病合併症治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ アルドース還元酵素を強力に阻害することにより細胞内のソルビトール蓄積を抑制し、糖尿病合併症の一つである糖尿病性神経障害を改善する。同種薬剤に比べ、酵素阻害作用が強く、作用持続が長い。ヒト神経内への本剤の移行、用量依存的な神経内ソルビトール、フルクトースの蓄積阻害が臨床試験で確認されており、これまでに得られた試験成績から本剤による神経機能および症状の改善効果が期待される。
- ・ 2005 年 9 月に海外の開発・販売権についてエーザイ(株)とライセンス契約を締結した。同社が海

外フェーズⅢの計画を検討中。

- ・ 開発段階：フェーズⅡ（国内、杏林製薬㈱との共同開発）

SMP-114 関節リウマチ治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 経口投与の新規DMARD（Disease Modifying Anti-Rheumatic Drug）であり、関節リウマチにおける慢性炎症、関節破壊、関節変形の進行を抑制することを期待している。
- ・ 開発段階：フェーズⅡ（欧州）、フェーズⅡ（国内）

SMP-862（メトホルミン塩酸塩） 糖尿病治療剤

- ・ Merck Sante 社から導入
- ・ 本剤は、インスリン分泌促進を伴わず、肝糖新生抑制作用、末梢での糖取り込み促進作用等を介して血糖降下作用を示す特長を持つメトホルミン塩酸塩製剤である。当社は、1961年にメトホルミン塩酸塩を含有する「メルビン錠」を日本で最初に自社開発・販売しているが、近年の作用メカニズムの解明や欧米の大規模試験での臨床知見の蓄積を受け、更に日本人でのEBMに資する治療情報を提供することが重要であると考え、本剤にて現在の新薬承認基準に適合したデータを再整備し、適切な効能効果、用法用量の新規取得を目指している。
- ・ 開発段階：フェーズⅡ（国内）

AC-3933 認知症治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ ベンゾジアゼピン受容体にパーシャルインバースアゴニストとして作用する。アセチルコリンエステラーゼ阻害剤とは異なり、アセチルコリン遊離促進によりアセチルコリン神経系を賦活するとともに、グルタミン酸神経系を賦活する作用も有し、認知症の中核症状である記憶障害を改善することを期待している。
- ・ 開発段階：フェーズⅡ（米国・欧州）、フェーズⅡ（国内）

SMP-986 過活動膀胱治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は、ムスカリン受容体に対する拮抗作用に加え、Naチャンネル阻害作用による求心性神経の過活動を抑制する作用を有することで、効果的に尿意切迫感を抑制し、そのため尿意切迫感や排尿、及び尿失禁の回数を減少させると同時に1回あたりの排尿量を増加させ、また、ムスカリン-3拮抗作用に由来する副作用（口渇）との分離も期待できる。
- ・ 開発段階：フェーズⅡ（米国・欧州）、フェーズⅠ（国内）

SMP-028 気管支喘息治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は気管支喘息の病態形成に関与する主要な炎症細胞に対して、炎症系のメディエーターを抑制するなど、幅広い作用を示す。喘息モデルにおいて有効性を示す結果を得ており、強い抗炎症作用を有する新規メカニズムの喘息治療剤になることを期待している。
- ・ 開発段階：フェーズⅠ（米国）

DSP-7238 糖尿病治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤はDPPⅣ阻害薬であり、主にGLP-1を介したインスリン分泌促進作用により高血糖を改善する。GLP-1分解酵素であるDPPⅣに対する選択的な阻害作用を有し、かつ、強力な薬効を示すことから、より良好な血糖コントロールを示すDPPⅣ阻害剤となることを期待している。
- ・ 開発段階：フェーズⅠ（欧州）

DSP-3235 糖尿病治療剤

- ・ キッセイ薬品工業(株)からの導入品
- ・ 本剤はナトリウム依存性グルコース共輸送担体 1 (SGLT1)に対する選択的阻害薬である。これまでの α -GI 剤とは異なる新しい作用メカニズムにより消化管からの糖吸収を抑制する食後高血糖改善剤となることを期待している。
- ・ 開発段階：フェーズ I (国内)

DSP-8658 糖尿病治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤はペルオキシソーム増殖因子活性化受容体 (PPAR) α および γ の賦活化作用を有する PPAR α/γ モジュレーターである。糖代謝改善作用に加えて脂質代謝改善作用を併せ持ち、循環血漿量増加・体重増加などの副作用を持たない次世代のインスリン抵抗性改善薬となることを期待している。
- ・ 開発段階：フェーズ I 準備中 (米国)

コード名未定 気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤

- ・ 自社開発品
- ・ 本剤は Toll-like receptor 7 (TLR7)に対するアゴニスト作用を有する免疫調節剤であり、気管支喘息、アレルギー性鼻炎において長期寛解をもたらす治療薬になることを期待している。
- ・ 当社における新しい作用メカニズムのアレルギー性疾患治療剤の探索研究において見出された有望化合物群が契機となって 2004 年より AstraZeneca 社と新規アレルギー性疾患治療剤に関する共同研究を実施することとなり、その成果として本剤を見出した。
- ・ 2005 年 3 月に AstraZeneca 社と共同開発販売契約を締結した。契約に基づき当社は日本、中国、韓国、台湾を開発・販売テリトリーとし、AstraZeneca 社はこれら 4 カ国を除く全世界を開発・販売テリトリーとして本剤を共同で開発する。同社が海外でフェーズ I を実施中。
- ・ 開発段階：フェーズ I 準備中 (国内)

以上